

令和3年度 ACTR

分類 番号	A17	取組 名称	北山杉と京銘竹の標準化(規格化) —伝統工芸技術継承のための科学によるトップブランド化—
研究代表者所属・職名：		生命環境科学研究科・教授	氏名： 古田 裕三
研究担当者：			
【京都府立大学】：古田裕三【外部分担者】三重大学：瀧上佑樹氏【外部協力団体】京都市都市計画局都市景観部風致保全課：渡邊大郎氏、京都府農林水産部林務課、京都市産業観光局農林振興室林業振興課、京都木材協同組合：谷口吉昭氏・浅岡秀哉氏、京都府産木材利用拡大協議会：堀井誠司氏、NPO 法人京都発・竹・流域環境ネット：吉田博次氏、(株)アドプランツコーポレーション：増永滋生氏、他			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都市都市計画局都市景観部風致保全課、京都府農林水産部林務課、京都市産業観光局農林振興室林業振興課、京都木材協同組合、京都市域産材供給協会、京都府森林組合連合会、京都府木材組合連合会、京都府産木材利用拡大協議会、NPO 法人京都発・竹・流域環境ネット、他			
【研究活動の要約】			
本研究は3年計画の1年目である。北山杉に代表される京都の木材と、京銘竹に代表される京都の竹を、工芸技術等を継承しつつ科学的な知見も加えることによって現代のニーズに見合った製品をトップブランド化するためのシステム作りについて様々な調査・検討を行った。その結果、木材、竹材のいずれについても、京都府下の産地による分類よりも、製品や製品ジャンル毎に標準化（規格化）を行うニーズが高いことが明らかとなるとともに、一部標準化を行うべき項目（例えば、デザイン性、科学的優位性、環境的優位性、など）についての抽出も行った。2年目は木材と竹材のそれぞれについて、標準化のための準備委員会を作り、製品や製品ジャンルごとに標準化を行う項目を選出・検討・決定しつつ、認証システムなどについても検討し、3年目以降の試行・運用に向けた準備を行う予定である。			
【研究活動の成果】			
木材と竹材のそれぞれについて、標準化（規格化）により、京都独自のトップブランド化を行うことを目的として、様々な調査・検討を行った。得られた主要な成果は以下の通りであった。			
【木材】			
参考を示す図のような「京都の木」ブランド化規格を作成した。すなわち、今後、標準化システムを作成し、木製品の意匠性、機能性、先進性などを差別化することによってブランド化するものである。			
【竹材】			
参考を示す図のような「京都らしさ」を利用する竹の利用方法を調査した。その結果、今後、標準化すべき製品群を最終選別し、製品ごとにブランド化する方向性となった。			
【研究成果の還元】			
R3.11.7 オンライン形式 関係者等約 40 名「けいはんな天然資源利用促進懇談会」 (テーマ：京都南山城地域の「放置竹林」の再生を目指して)			
R4.2.20 オンライン形式 関係者等約 50 名「けいはんな天然資源利用促進懇談会」 (テーマ：カーボンニュートラル・モデル地域の形成を！)			
R4.2.18 京都木材会館（ハイブリッド形式） 関係者等約 15 名「京都木材協同組合特別委員会」			
R4.3.24 京都木材会館（ハイブリッド形式） 関係者等約 10 名「京都木材協同組合特別委員会」			
【お問い合わせ先】 生命環境科学研究科 生物材料物性学研究室 教授 古田 裕三 Tel: 075-703-5637 E-mail: furuta@kpu.ac.jp			

